特用林産物消費圏における生産振興について

山形県村山総合支庁森林整備課　林業普及指導員　荘司　和也

１．はじめに

山形県の村山地域は中核市である山形市を含み、県内で最も人口が多い地域である。また、当地域は山菜をよく食べる文化を有しており、きのこ、山菜といった特用林産物の消費圏となっている。

一方、村山地域におけるきのこ、山菜の生産量は県内全体の約４％を占めるのみとなっており、生産量が少ない状況が続いている。さらに、今後は生産者の高齢化や後継者不足などから、生産量の低下が加速してしまうことが想定されるため、村山地域での特用林産物の生産振興について、普及指導員として生産振興、消費拡大の二つの側面から取り組むこととした。

２．取組内容

取組方法としては、きのこ・山菜の生産力の向上や生産者の増加、知名度の向上、需要拡大を目的とし、今年度は以下の(1)～(3)の内容を実施した。

(1)既存生産者への技術の普及活動

【七軒林産部会視察研修】

日　　時：令和元年８月３０日（金）
場　　所：西川町間沢地内（原木なめこ栽培地）
対 象 者：七軒林産部会員６名（山形県大江町在住）
内　　容：①原木なめこ栽培地の視察
　　講師：下堀共同造林組合　組合長　佐藤辰彦氏
　　②おが粉菌を使った栽培技術の紹介
　　③栽培管理技術に関する質疑応答

（取組状況写真）

原木なめこ栽培地の視察

おが粉菌を使った栽培状況の確認

(2)新規生産者の掘り起こしのための研修会

【原木きのこ栽培研修会】

日　　時：令和元年１１月１９日（火）

場　　所：山辺町作谷沢ふれあい自然館、山辺町畑谷地内

対 象 者：山辺町作谷沢地域の森林所有者、山辺町作谷沢振興会会員　２５名

内　　容：①（講話）原木きのこの栽培の基礎知識について

②（実習）原木しいたけ、なめこの植菌作業体験

講師、作業指導：きのこアドバイザー　齋藤良次氏

（取組状況写真）

講話：原木きのこ栽培の基礎知識

原木なめこ植菌作業体験

(3)特用林産物のＰＲ

山形県林業まつりでのＰＲ活動

日　　時：令和元年１０月１９日（土）、２０日（日）

場　　所：山形県総合運動公園（天童市）

内　　容：なめこすくい体験（参加者：１９３名）

特用林産物のパンフレット、きのこ料理レシピの配布

きのこに関するアンケート調査（回答者：２４６名）

（取組状況写真）

なめこすくい体験

パンフレット、レシピの配布

３．取組結果

まず、２つの研修会の開催に関しては、一方的にこちらが内容を決めるのではなく、要望が寄せられた内容について、事前に対象者と相談を行い、相手の要望に沿った研修内容となるよう調整を進めていった。そのため、研修会の際には参加者からきのこの収量や栽培にかかるコスト、気温の変化への対応策といった質問が多く寄せられ、栽培技術の向上や栽培に対する関心、意欲の向上が図られたと感じられた。

次に、特用林産物のＰＲについては、平成２５年度から継続して行っているアンケート調査の結果から、生産者のきのこに対する意識の変化が表れてきていることが分かった。具体的には、図１のとおり、平成２５年度から令和元年度を比較したところ、「県産きのこを購入していますか？」という問いに対して、「はい」と回答した割合が上昇していた。また、図２のとおり、「きのこを購入時に気を付けている点は？」という問いに対しては、平成２５年時には「量」を重視し、「見た目」はあまり重視しない傾向が見られていたが、現在は「量」より「見た目」を重視する傾向になってきていることが分かった。

これらのことから、これまで継続して行ってきたＰＲによって、きのこに対する消費者の意識の変化が確認された。

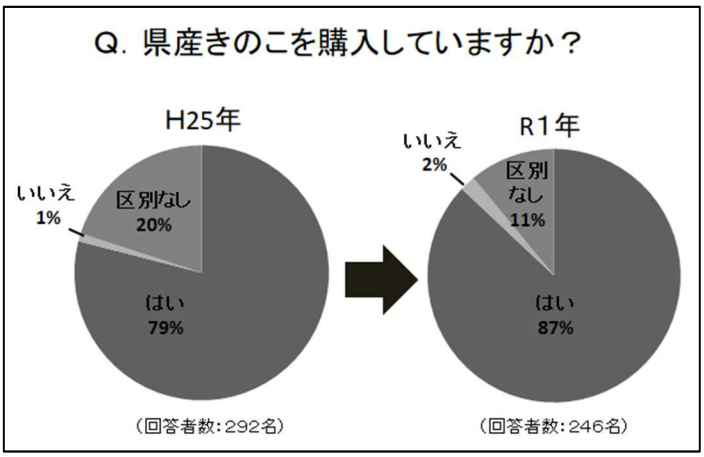

図１：アンケート結果より①

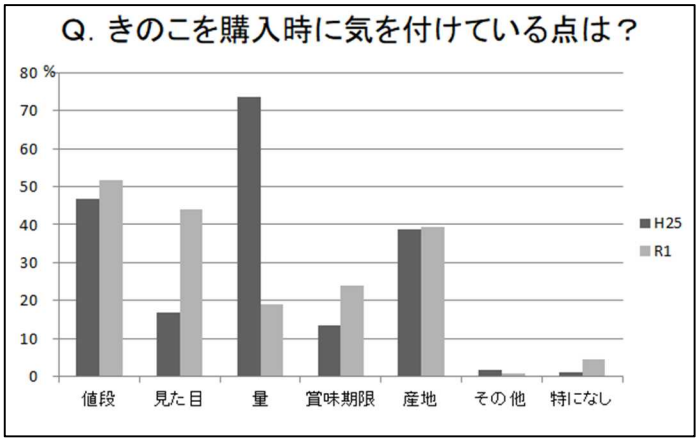

図２：アンケート結果より②

４．考察

特用林産の生産振興を行うためには、安定した需要の確保が前提であり、今回のように生産力の向上と需要の拡大の二つの側面から振興を図っていく必要があると考える。

まず、生産力の向上については、アンテナを高くし、特用林産物の栽培に活用できる技術や情報を収集し、広めていくことでより効果的な普及活動、研修会を行うことができると考えている。また、需要の拡大については、アンケートの結果から現状のＰＲが結果として表れてきているため、普及効果が高い料理レシピの活用を今後も継続して行うことにより、さらなる消費の拡大へとつながることが期待される。